



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 17

2009.11.4 (No.2568)

第2560地区ガバナー／植木 康之
 会 長／菊池 渉
 会長エレクト／樺山 仁(クラブ奉仕A)
 副 会 長／山田 富義(クラブ奉仕B)
 幹 事／松永一義
 S A A／成田 秀雄
 会 計／石月良典

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (～はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押してください)

- 本日の出席会員数:55名中38名
- 先々週出席率:74.51%

【ゲスト】

・三遊亭金時 様

【先週のメイクアップ】

[10.29] 三条東RCへ

- ・武田真二さん、石月良典さん
- ・熊倉昌平さん、田中 仁さん
- ・浅野金治さん、加藤紋次郎さん

[10.31] ライラ研修へ(新潟)

- ・斎藤真澄さん

季節のお花 (月下美人)



幹事報告

松永一義 幹事

◎植木ガバナー事務所より、米山奨学生学友会総会開催のご案内が届いております。

と き 12月5日(土) AM11:30～

と ころ ホテルオークラ新潟 4F コンチネンタル

◎植木ガバナー事務所より、山口豪雨に対する義捐金の報告と御礼が届いております。

・第2710地区ガバナー事務所へ130万円(広島県・山口県)

・第2680地区ガバナー事務所へ130万円(兵庫県)

送金合計 260万円



「ロータリーの未来は、
あなたの手の中に」

2009～2010年度国際ロータリーのテーマ

〈三遊亭金時さんを囲んで夜例会〉

PM6:30～
於 越前屋ホテル

去る11月4日(水)、親睦委員会では「三遊亭金時さんを囲んで」夜例会を行いました。
当日参加者47名で(ご夫人含みます)笑いあり、涙ありの楽しいひと時となりました。

三遊亭 金時 (さんゆうてい きんとき)
本名 松本 晋平(まつもと しんぺい)
生年月日 1962年 11月 24日
芸種 落語
出身地 東京
出囃子 松の緑
紋 ミツウロコ



芸歴 昭和61年3月 四代目金馬入門
平成元年9月 二つ目昇進
平成10年9月 真打昇進
初高座 1986年4月21日
場所 池袋演芸場
演目 手紙無筆

CD、DVD、落語大全 笑王DVD

書籍など
得意ネタ
受賞

二番煎じ らくだ 抜け雀 厩火事
平成3年、4年、二年連続NHK新人コンクール本選大賞
平成5年、文化庁芸術祭優秀賞次点に入る
平成16年度

文化庁芸術祭新人賞受賞
平成16年度
国立演芸場 花形演芸大賞 銀賞受賞

平成17年度
国立演芸場 花形演芸大賞 金賞受賞

趣味 野球 ゴルフ エアロビクス 昼寝 習字 お酒少々

自己PR

平成12年4月から10月、HNK朝の連続テレビ小説
「私の青空」に春風和夫役で出演
平成7年～平成15年

ラジオ日本「金時の神奈川見聞録」に出演



「演題：柳田格之進」

誇り高い武士の生きざまを描いた人情斬の傑作。

柳田格之進は、生来の正直さが災いして主家から放逐される。その後、妻に先立たれ娘のおきぬとともに浅草阿部川町の裏店に逼塞している。今日の米にも困る暮しぶりだが、そんな中であっても武士の誇りを捨てない実直な人柄は少しも変わることはない。彼を慕う浅草馬道一丁目の両替商、万屋源兵衛とともに碁を打ち酒を酌み交わすのが、ただ一つの楽しみである。

8月15日の夜、格之進は万屋宅で月見の宴を張り、離れ座敷で碁を打つが、格之進の帰宅後50両の金子が紛失する。源兵衛は「あのお方に限ってそんなことはない。ましてや、かりにそうであっても柳田様には仔細あってのこと。」と気に留めない。だが番頭の徳兵衛は主人への忠義立てとばかりに格之進宅を訪れことの真偽を糺す。

「いやしくも身共は武士、何ゆえあってかような疑いをかけるか。」と激する格之進であったが、「さようなれば致し方ございません。もはやこちらからお訊ねいたしません、何しろ五十の大金でございます。お上の方でも御取調べに相成ります。」との徳兵衛の言葉に、武士の誇りが傷つくことを恐れ、「是非もない。金子はこちらの預かり知らぬことではあるが、紛失した場に身共がいたことがわが身の不運。…よし、明日金子用立てる。」と約束して番頭を帰す。

格之進は自害するつもりで、おきぬにそれとなく別れを告げるが、「お父上、されば、わたくしが苦界に身を沈め、その大金を用立てます。私との親子の縁を切れればよいことなれば、どうかご生害をおやめくださいませ。」と懸命に説得される。格之進は断腸の思いで娘を吉原に売り、翌日徳兵衛に五十両手渡す。だが、柳田は「ただし、番頭。もし金子が出てきたら、その方の首をもらうが、よいか。」「へい、よろしゅうございます。」と番頭に約束させる。

それを聞いた源兵衛「なんてことを…。番頭、あたしはね、そんな金子ぐらい、わたしの小遣いと思えばいいんだって言ったじゃないか。そんなことしてかしては、柳田様に申し訳が立たない。いらざる忠義立てだ。主思いの主倒しとはお前のことだ。」と徳兵衛を叱り飛ばし、急ぎ謝罪に行くが、すでに格之進は家を引き払っていた。

さて、年末のすす払いで、金子が離れ座敷から見つかる。源兵衛が小用に立つとき何気なく欄間の額の裏に納していたのが、折からの格之進との碁の勝負で失念していたのであった。驚愕した源兵衛は「ああ。柳田様に申し訳が立たない。」と店の者に格之進

の行方を捜させる。だが、すでに柳田は家を立ち退いてしまいその行方は杳として分からない。

年が明けて正月の4日、徳兵衛は年始回りの帰りに、湯島天神の切通して、身なりの立派な武士から「これ、そこに居るは浅草馬道一丁目の万屋源兵衛のご番頭とみたが、」と声をかけられる。「へい。仰せの通り、手前は浅草馬道一丁目、万屋源兵衛の番頭、徳兵衛でございます。して、あなたはどちらさまで。」「柳田格之進じゃ。」「あっ！柳田様でいらっしゃいますか。これは、お見それをいたしました。御無沙汰しております。…それにしてもご立派なお姿になられて。」聞けば、格之進は主家の帰参が叶い、今や江戸留守居役に出世したのであった。「どうじゃ。一献傾けぬか。」と誘われるまま傍の茶屋に行くが、番頭は、以前のことがあるので針の筵である。ついに番頭は涙ながらに粗忽を詫び金子発見を告白、約束通り私の首を差し上げると告げる。格之進はからからと笑い、「さようか。ウム。しからは明日そちらに伺う。番頭、首をようく洗っておれ。」と言い捨てて去る。

翌日、格之進は万屋に赴く。源兵衛が飛んできて、「ああ、これは「柳田様！久しくお目にかかりませんで。」「おお、主か。久方ぶりじゃ。」「見ればご立派なお姿になられて、…仔細は番頭から聞きいております。まずはこちらへ。」と、奥座敷に通したうえで源兵衛は、徳兵衛を去らせ、すべての責を負わんとばかり、「柳田様、このたびの不始末はみなわたくし、主人の誤ちでございます。疑ったのは番頭ではございません。わたくしが柳田様のもとに行けと申しましてございます。番頭はまだ若うございます。斬るのならこの、源兵衛をお斬りください。」と泣いてわびる所へ徳兵衛が「旦那様！」と入ってくる。「番頭！なぜ。居るんだ。いいから黙ってろ！」「いいえ、とんでもございません。もし柳田様！旦那様は何もご存じございません！私をお斬りくださいませ！」「いいえ、この私から。」と互いにかばい合う。「もうよい！両名ともそこに直れ！」格之進は来国次の長刀を抜いて、気合いもろとも床の間の碁盤を真二つに切る。

これはと驚く二人に「身共とて、娘への面目なさに斬らんとしたが、其方らの情けに打たれ、斬ることが出来ぬ。」「して、お嬢様はいかがなされました。」「それが…」と、格之進は娘の犠牲で金子を工面したことを告げる。驚いた万屋はいそぎお染を身請けし、お染も「父上がよろしければわたくしは何も申すことはございません。」と万屋を許す。格之進はもとどおりに万屋と交誼を結び、おきぬは徳兵衛と夫婦になり、できた男子に柳田家の跡目を相続させる。



次週例会 11月18日

「ライラ研修に参加して」

新世代奉仕委員長 斎藤真澄 会員

三条ローターアクト幹事 赤坂広太郎さん

次々週例会 11月25日

外部卓話

柏崎市議会議員 中村明臣 様

